

和歌雑詠

番外書冊

和歌雜詠

和歌 十一ノ一

和書門類	一八二	五
函號	一七四	七
架冊	一四二	
冊	二	

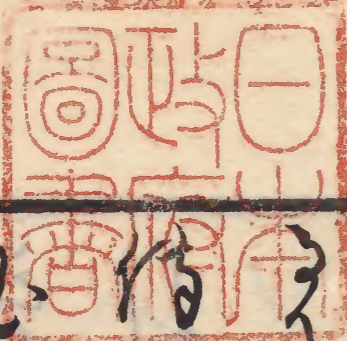
147

內閣文庫	和書類
函	一八二
架冊	一四二
冊	二

內閣文庫	番號	和 18244
	冊數	2 ( 1 )
	函號	212 147

212-147





以承好意しりて成  
 事の秋より家より物事  
 是は江島に帰しりて今  
 信和堂のしりて成りて  
 玉ちりたりし書きたり  
 ことなりし事信和堂  
 此の事なりし事なりし



新くはるる春の影さかしく  
物に叶はぬの業うらひに  
高の程にほむらしちかき  
れを

偏に人さるる舞  
杉木に上たはるしよ  
此の春は花の

おまへは時節のこころにあは  
りてくはるる春の影さかしく  
いとたかしくはるる春の影  
人あはるる春の影さかしく  
はるる春の影さかしく  
この春は花の影さかしく  
おまへは時節のこころにあは

そのまゝに申し候へども、  
おまゝに申し候へども、  
此書にあらざるは、  
神々の御心にて、  
ひまゝに申し候へども、  
いはる様本を、  
むらせきまゝに申し候へども、

伊勢にあらざる書

ふらせまゝに申し候へども、  
学はふらせまゝに申し候へども、  
すなはち、  
らた代の御心にて、  
かゝるまゝに申し候へども、  
あゝ、



だまわ〜(逢)〜う〜ひ坤るうせうれく  
 ひとあ〜まをそ〜あをるを安政能とせ  
 と〜と〜〜あ〜と〜ふら〜め能とせ  
 江戸乃旅中ゆる〜石橋乃近江國河  
 へ能疎尾の景秀

伊勢 源淑慎書

奇よむやう

奇ハハよおあふるを物よよ〜え〜案よあやな〜ていひ出る  
 ことなり。上右のあれ能〜あお〜く。枕詞おほきハばなぞう〜。  
 志のうち思ふこととや。やうていひ出る。自然よ産怒哀案  
 の語務能をりて感情能情きんまりあり。感情能録情ハ語務  
 よよろものなる。されば昔よりのいひあり〜ることづ〜とい  
 さ〜うれ〜え〜せひ。語務のあつ〜ひさまよありてあ〜〜よ我  
 物ハハなほり。堀川院の比れ人〜。方言俗語を何れ〜とを  
 てもなくよ〜いでられつる。後成心ゆ〜びとて。い〜うお  
 なる〜うなるやうよとのこと思をれて。子裁集を撰ぞり。を  
 なる〜ことなる。そよりのた〜こと撰をたり〜と。つひよ〜あれ本

羨古をせうりあへるやうななり。比叻以來つきく家近一家  
と論して、秘宗の詞をいふくありゆきて、まの<sup>タビ</sup>唯つらり  
ものなををてまより、古学おひりて後、<sup>ナ</sup>後比葬をまぬり  
ま一人ましく、<sup>ツモク</sup>抑天曆より寛弘ははまでの人これ家系  
をるる。道徳の<sup>ゾウツツ</sup>徳をおかく、方々平語をうまくあやま  
ついにけられし。ま<sup>モハ</sup>古き古きやうなひて、志の<sup>キ</sup>筆概ある  
おおなり。今も学ふべきはははは<sup>スガラ</sup>はあり。永久のはより  
て、<sup>ム</sup>ま下<sup>デ</sup>は<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
の人ばさういそころつくべし

類題集詞よせ

初学の人、大かく、<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学

あへきより、新系氏まのいといつる、いより一うべし、<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひ  
た<sup>クセ</sup>能<sup>ニ</sup>をい<sup>ハ</sup>つ<sup>マ</sup>でも<sup>モ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
て、つひよりけあるよき、おひよりおぐし、まの<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひ  
ふりらのり、あられ<sup>シ</sup>能<sup>ニ</sup>をい<sup>ハ</sup>つ<sup>マ</sup>でも<sup>モ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
がりて、よみおひて、い<sup>ハ</sup>つ<sup>マ</sup>でも<sup>モ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
かぬるものなり。文非はは初学の人よをいふるやうに、たふ  
ハ、三代系六帖、古き家系、まを<sup>フシ</sup>時<sup>ジ</sup>を<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
さく、あよまひとする、<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
よよらばつづけよませて、まかある時よ、古れ<sup>シ</sup>能<sup>ニ</sup>をい<sup>ハ</sup>つ<sup>マ</sup>でも<sup>モ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
いふること、<sup>シ</sup>新<sup>シ</sup>規<sup>キ</sup>をの<sup>ニ</sup>ねがひて、<sup>フウチ</sup>風波あるおなり。初学  
そ尾とくのまぬハなり。

家の集

家の系ハ群書類後ニをさめしむ。世之躬恒。右筆。をす  
め。能宣。元輔。順。重之。長能。輔親。為仲。俊頼。基俊。  
行宗。為忠。清補。忠孝。安法。和泉式部。赤染清。相模。  
など。いかにし。名なき人この系ハかなるに見へし。但し。いば  
きも。謠字ゴシダツブ後文おなく。まゝニそを一首よりきつゝねまことよみ  
とき。づゝきりもたか多れ。いぬがきり。をば。えきまに  
さし。ゆきて。佳音タツカミ時の詞づらひ。き世の人。なれ。あより。やう  
を。よく。くんと。めて。あふ。えし。きれ。ぐきり。を。きひて。きんと  
きり。よ及。む。い。中。お。本。系。行。宗。系。為。右。系。など。い。あ。な。れ。ぬ  
詞。と。い。方。を。系。語。お。き。よ。より。て。世。の。人。く。い。ま。う。ま。ら。き。物

のやうといつれど。その後。後。年。の。系。を。つ。り。物。と。せ。る  
世の人。と。られ。い。ひ。お。け。る。こと。も。を。身。ま。れ。く。い。さ。う。も  
キ。概。あ。る。あ。ら。う。や。う。よ。と。ふ。り。れ。謠。字。

物語日記

物語。づ。り。日記。を。休。五。伊。勢。大。和。源。氏。捷。衣。の。ご。ひ。  
枕。の。系。派。ち。右。更。科。ば。ぶ。式。部。和。泉。式。部。淡。波。典。伯。お。れ。日記  
と。い。ゆ。れ。そ。世。の。詞。づ。ら。ひ。の。あ。る。や。う。を。述。へ。う。べ。し。ら。ら  
し。え。う。き。り。と。穿。鑿センサクせん。と。ふ。べ。う。い。宣。徳。物。語。拾  
日記。を。ま。し。て。ら。ゆ。づ。き。り。あ。ら。れ。た。た。ご。世。の。人。れ。物。い  
ひ。ざ。り。を。志。る。こと。を。志。し。と。き。り。又。三。流。系。不。物。語。後。世。流。な  
ど。の。か。る。記。録。ハ。こ。と。よ。い。れ。て。え。う。へ。し。か。い。ま。う。今。昔。物。語



字法拙き物種、著聞素やうれちどりの、程持てして、さるべき  
なり。さるはげちどりの後の物さうかへ、早て古のま紫づいひ  
をささるたよりとならるみおかく、うつを今れ世乃、俗<sup>ゾク</sup>のさま  
紙文素よ物せむよき、うけのちどりのせむ、うまなるはされば、  
うま、はうきとりか、

玉敷とりふま

お店敷の著<sup>アラ</sup>はされ、玉敷とりふま、初葉の人れうねるび  
ん、へき、ちるり、但し今れ世の人被書よ、いれ、ること  
を、か、く、ちりて、花のさける、い、き、き、て、あ、ら、る、ら、れ、バ、花、さ、き、  
し、と、を、し、ひ、う、と、て、し、ハ、ま、れ、俗、ま、な、り、堂、一、ま、さ、り、ハ、  
ち、よ、む、べ、う、は、と、ち、う、よ、い、ひ、ら、ふ、た、ぐ、ひ、お、か、う、ハ、中

くお敷のん、ま、い、い、ぐ、ふ、べ、い、被、ち、い、ぬ、ふ、と、い、ひ、う、ま、り、  
ま、あ、く、ち、ま、う、せ、て、一、う、う、れ、う、と、り、と、物、せ、ら、れ、の、こ  
よ、そ、い、あ、め、れ、そ、い、く、お、い、ま、き、詞、も、ま、あ、り、か、ら、ま、て、か  
る、う、て、う、の、い、は、ひ、と、ち、う、よ、き、詞、い、ひ、な、り、ま、あ、れ、お、  
一、お、を、そ、こ、ち、へ、り、そ、べ、て、ち、く、お、あ、い、詞、い、ひ、今、れ、ち、い、ひ  
物、せ、ん、よ、難、け、い、だ、ご、り、な、り、う、れ、よ、き、あ、り、ま、を、お、む、  
あ、り、へ、き、の、を、肝、要、と、ま、ご、い、

み

月法、い、ま、い、風、を、し、く、ま、津、を、ま、や、い、な、り、の、み、文、字、さ、よ、と  
い、る、俗、ま、う、し、を、へ、ら、れ、と、ま、と、右、今、葉、よ、さ、か、い、れ、作

の形染ちりぬべし。玉くし。字あけ。ハ。美々名。し。ち。ぬへ。え。色。よ。い  
で。ハ。人。あり。ぬ。べ。み。伊。勢。物。語。よ。ゆ。り。の。な。り。か。ぎ。り。な。る。べ。し。な  
ど。れ。み。文。字。さ。ま。も。う。つ。ご。く。れ。バ。初。学。の。人。れ。す。く。ま。ど  
ふ。り。之。指。び。み。り。ハ。氣。び。を。あ。び。す。の。ひ。ち。の。清。き。よ。う。の  
ま。つ。る。物。ま。た。だ。形。容。の。詞。さ。よ。と。を。く。へ。て。を。申。く。は。初。学  
の。人。ま。く。り。げ。み。り。ハ。清。く。も。も。く。も。清。く。も。も。さ。り。と  
も。い。れ。ご。き。あ。よ。お。く。詞。ま。た。つ。く。詞。と。切。り。詞。れ。あ。ひ。び  
の。詞。と。ま。ま。ぐ。く。ま。て。雅。き。は。俗。き。を。あ。つ。る。ハ。や。ま。き。や。う。は  
て。い。と。う。き。ま。さ。なり。さ。る。ハ。是。を。初。学。の。人。れ。つ。ま。り。さ。ま。く  
は。初。学。する。す。ち。と。よ。く。考。へ。極。め。て。さ。く。俗。き。を。あ。つ。べ。き  
なり。あ。う。せ。され。ハ。初。学。の。人。れ。お。ひ。の。お。なる

あやまち。引。出。る。物。と。考。者。よ。く。も。ま。き。ま。さ。り。う。り

志

やまめ。初。学。れ。あ。や。ち。い。だ。り。の。う。け。詞。な。き。ハ。よ。り。う。り。と  
い。ち。作。り。より。今。れ。世。の。人。を。も。の。う。け。詞。な。き。を。ぞ。ぞ。や。よ。ひ  
の。こと。の。や。う。よ。い。へ。ま。と。さ。ま。あ。ら。は。古。左。日。記。よ。ひ。と。も。ど。を  
あ。ら。ぬ。者。あ。ら。あ。ハ。十。中。ど。よ。あ。て。ぞ。指。ぶ。ま。く。又。今。一。を。ぬ  
と。し。ふ。あ。ま。き。ぬ。ま。く。う。ぎ。を。や。め。て。う。け。さ。り。か。ら。う。り。ん。  
く。ふ。一。を。か。く。一。を。あ。ど。い。つ。の。よ。り。か。く。い。ま。年。ハ  
や。ま。め。詞。な。り。と。つ。よ。い。ひ。い。ろ。く。語。え。古。く。ハ。げ。あ。文  
字。い。と。お。か。く。う。ゆ。り。今。れ。あ。ま。り。こ。な。く。ハ。ス。う。う。あ。う。  
あ。ど。名。み。一。お。も。く。程。一。あ。れ。バ。ま。ど。い。へ。る。を。の。こ。ま。る。れ。ま。れ

一なるをいれなきは、いうなりと思ふれど、そのつうひ  
さまのよりあはよれるのこがなうをいれまてうくべ  
きゆとのをいれまてうくべ

と、うくるこの格

と、いふ詞のとき、必切り詞よりつくべきよりいそれつ  
より、藤原氏のさまの時、物言ふを、物言ふを、物言ふを、  
あれと、それいなるもの、れ下は、折らまをこめていひさう、  
といふけ、さう、あ、よ、い、を、さ、格、は、あ、い、  
へる、詞の沿革と、いふ、よ、い、づ、れ、さ、う、被、え、と、い、  
つ、て、さ、う、と、て、さ、い、へ、ら、い、つ、く、詞、を、い、く、や、う、い、  
て、又、切、り、詞、を、や、う、い、ま、な、ら、る、詞、の、ま、れ、結、よ、変、格、と、

ま、る、詞、も、い、は、る、い、ま、て、ま、て、切、り、詞、より、い、ま、つ、く  
い、詞、つ、ま、り、て、ま、つ、く、い、う、な、る、ぬ、存、よ、自、然、と、轉、  
り、古、物、言、ふ、ま、つ、く、い、へ、て、古、人、の、詞、を、い、の、あ、ら、や、う、ま  
ぐ、よ、格、い、ま、を、い、ま、つ、く、今、れ、世、の、語、格、を、い、ま、つ、く、い、  
三、代、集、の、外、に、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
あ、ら、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
魂、よ、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、

かへて

風、か、ど、の、ふ、き、う、ま、り、て、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
へ、て、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
の、う、へ、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
風、れ、う、ま、ら、る、と、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、  
古、の、詞、を、い、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、い、ま、つ、く、



トカクとつづきあるいとよくあつたり。

いく

いくいとひうくるさまで、いくと代いくとあどかたなく  
てをよりうらむとつづきあるいとよくあつたり。あどかたなく  
考へるもいふもさういふもさういふもさういふもさういふも  
澄務までかく肝要の事だれもさういふもさういふもさういふも  
よのまなぐまで澄務よりつくべし。

やらぬ

やらぬとつづきあるいとよくあつたり。あどかたなく  
へふるもいふもさういふもさういふもさういふもさういふも  
の入やらぬなどちうむとつづきあるいとよくあつたり。

うれとつづきあるいとよくあつたり。新古今三條院澄波のゆれ  
とまきぬくはなりやうでさういふもさういふもさういふも  
ありて、うれとつづきあるいとよくあつたり。例あつたり。こ  
とよりわけていふとつづきあるいとよくあつたり。

とて

とてとつづきあるいとよくあつたり。あどかたなく  
ある詞とあるにかさくなく。是とつづきあるいとよくあつたり。  
つづきあるいとよくあつたり。やらぬとつづきあるいとよくあつたり。  
れとつづきあるいとよくあつたり。

とて

とてもとりか詞。たよよむべき詞はあはれ。といをけり。と。被  
名なき橘正行ゆりの。と。ても世よなづらふべくとあはれぬ  
の。といへる。うい今れよまつて。あなる物のうぎりふいなり。  
又壬二葉よの中よありあはれ人よえぬべ。と。ても月をやるか  
と。あはれまぬ。師道子そよ。と。ても月れあはれ。と。あはれ。又  
望てもなふよ。くまりやいせぬ。あはれ。あはれ。の。よ。て。よ。む。べき。よ  
と。あはれ。ぬ。ど。あはれ。よ。ま。ら。と。り。よ。ぶ。き。よ。あ。は。れ。例。の。と。り。な  
し。よ。ら。あ。は。れ。ぬ。

物うき

物うきよ。ぶせうといふ。俗を。あてて。き。つ。る。い。と。し。俗。言  
いかりやうよあてまり。き。と。さ。し。但。初。学。の。人。の。う。記。い

ひ。と。き。う。ぶ。せ。う。の。り。と。た。し。と。い。ひ。さ。ふ。は。ら。ら。と。あ。の。ま。い。あ  
物のうきまより。替。へ。る。詞。な。れ。ば。た。だ。大。う。の。こ。と。れ。う。き  
み。し。り。る。り。物。語。ぶ。と。い。ふ。所。多。し。ん。ど。う。し。き。し。ま。の。毒。と。り。ふ  
俗。を。て。あ。は。れ。る。所。お。か。た。れ。ど。又。た。だ。あ。は。れ。く。り。き。ま。さ。ふ。し  
つ。う。へ。る。お。お。り。定。く。精。用。よ。ん。つ。く。べ。い。

思いぐま

俗よあひやりのないといふ。ま。と。あ。る。あ。は。れ。ら。ぬ。是。は。ふ。い。雨。の  
ないといふ。ま。と。い。つ。ら。し。く。よ。く。あ。は。れ。り。後。に。物。は。れ。物  
いひ。を。せ。林。の。葉。は。れ。と。い。ふ。今。ま。て。ま。さ。ふ。は。れ。も。な。く  
と。の。へ。ぬ。る。り。う。い。さ。そ。物。は。れ。い。う。ま。せ。と。あ。は。れ。ま。い。語。よ。く  
ま。と。よ。め。ら。の。ま。と。よ。く。き。こ。ゆ。は。初。の。あ。は。れ。を。お。か。く。引。て

いへまば、こゝよをわづらひをいへり。  
おひ風

おひ風はうしろれ方よりふきくる風なれば、梅の玉れ方より  
吹くる風を梅のおひ風とよむ。いづれとあるはうしろれ  
ハ梅れうしろより、ゆきく海風のまよひへるなれば、いづれ  
なるもよなり。

かゝのまよハ、櫃の字れまよて、戸れ不そのまよるれど、轉じてま。  
唯、戸れまよのまよいへり。そやう源氏物語あはまのまよ、おく  
られ松のまよをまよとあけてまよ。又、夫木素世一ハ、夕鳥の  
まよへむまよきとがそころりまよ。なまよれれば、今まねびよ

まんま雜あり、扇のまよハ、雁が書なれといひなれて、いたハ  
扇のことまよのまよいへるまよ。

ほろろ火

扇のまよよりて、今れ世の人ほろろのまよのまよなれば、あま  
まよといひまよごころと思へるまよ。あまれまよまよせよ。た  
まよといふまよ、火垂ホナリのまよといへる人もあれと、あまど  
まよをたりとまよいへ。まよまよといふまよのまよ、まよまよ  
まよまよせよ。まよれ物の名とまよるまよ。まよまよとまよまよ  
まよまよなまよまよ。あまむ。伊勢物語まよまよれまよのまよまよ  
まよまよとあり。又、和泉式部和泉式部のまよ。まよまよまよのまよまよ  
まよまよのまよ。まよのまよまよ。まよまよ。まよまよまよまよまよ

まじよ何ういふらうむ。まじてお福いひろき候なりとすべ  
きとことよりよかづつらふ人とうくかうやうのみといひて  
度きなるをせむくゆうむとするこそいとかりけれ。

まじよむふら

まじよたぐ来るのこよこそあれ。遠る物よあはれまじよ。いそれ  
らるいあまりよことよりよ色より。彼おらりむくふと何いそ  
ぐらむまじよあるより。あらいひ別つる相よて。あまらちよと  
の免つふべきよあはれ。つねよてまめ引まらまじよ。いつらと  
まけまうけしてまきま。やうてむららともいふへきく。

みとりふ福のいひつけ

こよりの。こ福うつ壁。まじよまじてみまことつふらむひ。えらま

まのこいひつけ。まゆるまよハソいひつけ。とあるもこ  
ろ。まじていひつけ。一きあるハ二きよソいひのくるものこ  
三きよかぐるハかへまてまじよ。まじよびらる相。嵐をあ  
らむよ。まじよまじよあはれまじよ。ソいひくる難なり。まきまど  
まじよいひつけ。まじよまじよ。まじよまじよ。

文字あまり

まじよあまりの句よ。いあはれまじよ。あいうたの文字あるべしと。  
いそれまじよ。古人未だの流あはれ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。  
あいうおのまじよある句よ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。  
まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。  
まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。まじよ。



とあれなごいひてよりのむやハなほいつれもあやどをこと  
さうよおけるよよりていうよきうは。私をぞあふちごども  
あゝあんなごむもおなご定之。初巻の人ともあれは月はい  
でくう。なごよむめり。是もあゝは月ハソでまう。とふも  
あるべし。及命法師の。なごさくさくさくとおむひし。それ日乃  
んかくるき折もあうらる。とつるあ一かふハくるとさひ  
とあれど。らハあさうとあうでハまら。う。及。誦。の。み  
てあるべし。その。種。書。の。お。む。は。あ。る。あ。を。来。香。川。氏。れ。  
か。さ。う。つ。と。さ。う。と。お。む。ひ。と。あ。ら。ハ。よ。く。け。味。を。ゆ。り。と  
り。ふ。べし。さればあいうたの。あ。る。句。ハ。う。あ。ら。び。文。字。あ。ま  
ア。よ。物。と。べし。と。り。ふ。ら。き。な。り。

ヤトヨリノレトイハセマシキコトトモ

萩原何げうぐせよりが。ま。と。ふ。る。書。よ。い。く。く。飲。小  
雅情と俗情とのをさめあり。といるるハ。僻事あり。  
飲を彼と我と。此情を。平。常。通。俗。の。用。ある。道。  
なり。万葉集ハ。海。潮。朝。倉。の。所。代。より。奈。良。乃。所。代。と  
此風俗。古。今。集。を。奈。良。乃。の。末。より。昌。泰。延。喜。の  
俗情風俗也。後撰。み。つ。き。く。當。時。代。の。情。態。と。い。ま。  
ふ。と。あ。家。物。なり。我。を。彼。集。と。も。又。其。の。人。は。家  
集。と。も。と。い。ま。さ。く。味。く。ん。だ。の。ご。う。あ。ら。る。べし。  
別子雅情といふものあることなり。是も人々生れつき  
たる性情と。何れか。い。ま。あ。ら。る。あ。ん。飲。と。い。ま。あ。ら。く

本意なりたる挿人情の厚薄こそありぬばなり一も今も  
人情よかそ家事やもあるふよさる哉とてよもんと  
てみづのうへにおもひよれるまぢを捨てくばりへの雑  
情をいふと尋ねよもむは古人の口実なる他は物  
ふこそありけれ天地と動う鬼神をあそくとおも  
をひるそ性情の誠といふあるうへにいつそり此はくり  
ものいのごきを感感あくるむに於て此初層の人あり  
むらうに麻の毫水鳥乃羽音をききて新牛は夢さり  
かゝく怪おもし降つて雲志ぬやのなるまぬにたの  
ぬのりを然ふるごとき殺風氣なる事こそありむ中  
皆の末より一そ秋を唯詞花言葉をもてあそぶ道と

のこ思ひ取く平生有用代たななる事ふらつてさる  
人あきいひとり秋のりりびやたそ人さよあそ一はあう  
とめ長き夜わづるむい人たももごいよみ習ふ時さう  
おぼくはなかりこごり人よいもをいれどもみづのうへも  
亦あの一く月日とむ家べ一是らふくそ有用  
けりなる事哉せとる也一

序歌

又序歌とてかしのね物といはるもは後一序歌と  
いふものちのうへにけ中体なり上右のあた序歌と  
相言よのこ枕詞といふものも序はこれかき物  
あり古今人情をいふかものうへにさる物なれども

昔より幾千万の人れいといとせむとあぐなふあ  
くのれ。庭とあそびをみ。夜夜このなりむらうらばへ  
いほきもいなる回一す也。さればそとあついに我ものと  
よみおむよらば序歌ふよひものなり。序の詞れあて  
たよとをなす。よより回一なるは。録もあついに  
あついにありてきく人の感と振へべ。日本紀神  
功紀。幡菽穂出吾也。たぐと神託。つら。枕詞とのいよ  
る。成思ぶべ。されどもをり。序歌ともよむる。

能譜

又歌はの白ひあつて。物のあそびのいふ。たを  
と定あつて。詞のうるは。くさくさのいふ。なる。と。二。と。い

庵。いんちあそび。よら。む。詞の。され。む。み。く。は。て。り。詞。  
ま。は。よ。も。何。れ。の。た。を。れ。の。ま。り。く。い。や。げ。あ。る。あ。  
皆。能。譜。能。の。あ。ひ。あ。る。べ。と。あ。る。い。い。と。を。  
一。か。ぬ。能。事。な。り。たり。か。る。こと。い。人。あ。る。ふ。よ。り。  
と。た。う。い。人。を。い。と。歌。と。ま。用。の。あ。そ。び。を。い。は。換。  
ふ。た。を。い。と。と。して。あ。ら。雲。の。う。は。は。流。れ。て。あ。そ。  
が。業。な。れ。ば。高。格。よ。く。な。ま。る。よ。物。を。い。の。い。ひ。ら。  
ふ。の。う。小。歌。よ。む。こと。と。き。く。ふ。生。学。者。や。と。ま。  
お。か。く。い。ご。き。ふ。ら。を。持。ひ。く。う。い。は。お。は。物。れ。と。に。  
つ。く。く。い。う。も。酒。落。る。も。よ。む。能。ふ。事。い。ふ。や。を。を。  
なり。古人の家集どもとよむ。く。と。と。と。と。と。

撰集セツシユフのまかつくさうのぞんじく唯物のあはれのい  
 じれあぞひとまらちまらふち秋の古きホシ本義の勢セウキ  
 こころをいぬ後世ゴセの古今集子山の傍ナカ近ニカくこれ  
 ぶらとあうなむ老らへのこんとありせむつさ  
 うがまといはれもあましくせむしつこの  
 有りしるふらあふやされど能ノウ信シンの勢セウキも撰センびれ  
 らまざるもくそとほへー又俳諧ハイケイを誹ヒ諧ケイとか  
 くきむゆめてさうくわうさうたごといにあらざ  
 候コトよー我考ありそらこそとまらバシヨウ澁シヨウを引く  
 そーやあベチよりべー

月にさめる

夏ナツはゆるるといふも自然のサマさなるをいひ詞カそ  
 たぐにサマ清セイのコこころいなるのかいさけり  
 夏ナツはゆるるといふも自然のサマさなるをいひ詞カそ  
 一イツ樽テン一イツ明アカき事コトふらさるるさゆさゆのさや  
 ぐがまど活イッ用ヤウとばなるるめりべーさやのさや  
 ぐがまどをツク信シン借ケイふバキトシタハツキリシタがまどいふ  
 こと也。

夏はゆると

彼カ夏ナツどある類ルイちいふ文字のうへのことであれゆ  
 めよやがることいふことなまよと例レイの歌をきまな  
 がらよむ秋アキ子コま志シのシふことまをいふはよこの

多くなき。夫ハ侍伴ともしもまづ吾<sup>ケイ</sup>火とやべる  
むあど<sup>カウクニ</sup>漢土の熟字とてこれ詞子とりなり。以<sup>レ</sup>家  
より古の人をいふらう。今乃<sup>レ</sup>母の生<sup>ナ</sup>字  
者の<sup>カウクニ</sup>漢土ふたふたといひ。なふやうの事  
つゆなり。かぞ彼<sup>レ</sup>の熟字とて。うう取  
よめる。むむとつ<sup>レ</sup>の<sup>カウクニ</sup>風土とせる。今もまね  
らる。よあ。この<sup>レ</sup>の<sup>カウクニ</sup>詞を<sup>レ</sup>終<sup>レ</sup>く。用<sup>レ</sup>と  
を<sup>レ</sup>業<sup>レ</sup>なる。こと<sup>レ</sup>成<sup>レ</sup>たも<sup>レ</sup>ふべ<sup>レ</sup>。

或

大和<sup>ガ</sup>語<sup>ガ</sup>なご<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>大和<sup>ガ</sup>語<sup>ガ</sup>なり。語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>  
なる<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>部<sup>ガ</sup>語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ん<sup>レ</sup>。

いり。されど<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>なる<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>世<sup>ガ</sup>人<sup>ガ</sup>を  
た<sup>レ</sup>大和<sup>ガ</sup>語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>こと<sup>レ</sup>語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>  
語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。初<sup>ガ</sup>漢<sup>ガ</sup>語<sup>ガ</sup>と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>  
と<sup>レ</sup>あり。語<sup>ガ</sup>の<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。と<sup>レ</sup>ある<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>わ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ず<sup>レ</sup>。か<sup>レ</sup>う<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>  
ち<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>熟<sup>ガ</sup>字<sup>ガ</sup>。熟<sup>ガ</sup>字<sup>ガ</sup>に<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>語<sup>ガ</sup>文字<sup>ガ</sup>に<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>。熟<sup>ガ</sup>字<sup>ガ</sup>  
も<sup>レ</sup>教<sup>ガ</sup>の<sup>レ</sup>定<sup>ガ</sup>め<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>物<sup>ガ</sup>故<sup>ガ</sup>。熟<sup>ガ</sup>字<sup>ガ</sup>お<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>。下<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>  
見<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>。

あが記あり

先達<sup>ナク</sup>無<sup>ク</sup>味<sup>ガ</sup>氣<sup>ケ</sup>と<sup>レ</sup>釈<sup>ス</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>  
一<sup>レ</sup>文<sup>ガ</sup>雄<sup>ガ</sup>按<sup>ス</sup>一<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。ハ<sup>レ</sup>万<sup>ガ</sup>葉<sup>ガ</sup>集<sup>ガ</sup>よ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>  
と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。と<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>。

たのきいことめく。俗ギョクガナイ。又ラチモナイがどいふこと。後よ  
あれりよ。一掃イツランしき。ツライ。ナサケナイ。といふこと。も  
用ふ。塵チリ。意味氣の洗セ。いとゆる。澄カハ。らる。之。學者の  
らる。語を。た。く。ひ。あ。づ。く。行。く。家。事。り。あ。ら。ひ。の。よ  
いうに。万葉集。よ。ち。あ。づ。よ。な。く。ど。も。い。り。の。日。代。き。い。と  
云。詞。の。精セイ。し。家。あり。

たき

かくあつまる。き。事。を。あり。し。き。い。こ。た。あ。ぞ。と  
ち。俗文の例。よ。く。せ。く。に。雅言カダシ。よ。あ。ら。び。た。き。を。  
こ。ら。あ。ま。ら。し。し。き。い。な。ぞ。い。づ。も。し。も。物。の。ま。い。た。き。や  
ふ。い。る。る。形容ケイヨウの詞。よ。そ。痛イタキの。い。の。を。ぶ。あり。たる。こと。

い。る。を。い。う。い。く。な。也。捨。き。集。連。歌。ぞ。い。ふ。な。て。い。ま。は  
ね。ふ。た。く。く。よ。り。き。く。月。指。集。恋。下。紀。康。宗。  
死。た。り。や。宿。を。あ。づ。り。て。た。く。あ。ら。び。の。日。ま。き。水。と。や  
あ。の。ま。ゆ。く。ら。あ。ら。び。を。あ。れ。が。下。の。俗ソウ。と。も。い。ふ。べ  
う。い。づ。い。づ。う。よ。う。り。い。づ。も。し。も。難。や。

七

あ。は。て。よ。と。は。の。中。よ。こ。と。に。ま。こ。う。き。あ。よ。初。学。の。人  
い。の。の。い。ぬ。時。あ。ぞ。な。ぞ。ま。よ。そ。く。い。ふ。こと。も。あ。れ  
い。ふ。い。を。そ。く。い。ふ。を。た。も。む。を。は。く。い。ふ。こと。も。い。ふ  
い。ふ。て。え。だ。や。と。い。ふ。な。き。と。あ。ら。び。も。あ。ら。び。と。い。ふ。も  
い。ふ。も。も。文。字モンジ。な。い。い。づ。な。り。と。あ。ら。び。も。あ。ら。び。も。

文字ハもしてケイダツ轉ケイダツの二つあり。おもふハ物とよむをりハ詞之  
られも。これもがどのものも。が後手ハ歎息の詞にて  
俗よ。モウイヤジヤ。モウアキタ。などのも。又也。本居翁  
も。マアとツツ漣ツツれりり。こま。この後手も。文字よ。く則  
助辞となれり。ハ文字よ。も二義ありて。まきハ物とよ  
り。あつ詞之。これハ。これハ。のハ。しがろふ。ハ歎息の詞を  
ハアカナシイ。イヤハヤ。が。り。ハ。田舎人の。ハ。ア。と。り。こ  
と。と。り。が。く。り。ふ。と。も。思。ふ。べ。い。され。バ。も。又。ま。バ。又。ま。い  
れ。も。歎息の辭と。ある。べ。い。ま。ま。く。物ツツ辭ツツといふ。も。け。ち。  
け。よ。く。い。ひ。ひ。る。く。詞。と。歎息ツツとの。あ。つ。つ。け。な。り。物。と。つ  
よ。く。い。ひ。ひ。る。く。身。あ。り。お。も。た。た。何。あ。つ。バ。く。り。を。

いま。そ。て。り。な。ど。れ。れ。志。よ。ま。く。その。中。よ。め。い。や。の。の。  
轉ケイダツを。ま。あ。り。そ。ま。上。下。の。詞。乃。は。ば。よ。ふ。と。れ。り。

れ

こ。その。下。と。ま。ま。く。と。結。ぶ。ハ。語。格。あ。つ。ま。て。ハ。て。つ。な。う。る  
詞。つ。き。と。な。り。く。ま。つ。の。か。か。ぬ。お。よ。や。古。よ。う。い  
ども。に。お。ね。ら。る。と。之。く。結。び。り。さ。家。と。詞。の。玉。は。結  
か。ど。よ。む。む。さ。び。詞。と。ど。り。と。く。い。ま。れ。ひ。る。と。い。も。あ。れ  
ど。是。ハ。れ。く。こ。い。ん。より。ち。あ。つ。く。よ。ま。あ。さ。い。ま。る  
や。つ。な。り。さ。ま。ま。バ。あ。あ。が。ら。ふ。む。が。と。も。く。え。格。あ。お  
い。げ。あ。ど。く。む。格。あ。る。べ。い。と。い。は。る。ま。い。り。よ。う  
一。記。況。也。彼。玉。の。緒。よ。恋。格。と。い。は。る。ま。ま。ま。く。こ。の

定まらず。又「やま」の詞。又と「やま」なむ。えくごとく。切る  
詞あり。づく。例あれど。中昔よると。はたかく。つく  
ことばを。うらむ。計と。まごも。びる。家も。何の。ゆふ。  
つゆる。故。源氏物語を。よく。く。味く。い。ま。べ。  
是詞の。活用。なり。い。う。く。あ。ふ。ら。ぬ。ぐ。く。ば。  
そ。こ。い。あ。く。

古今集よ。そ。こ。む。な。き。法。や。ち。や。り。ぐ。山河の。流。き  
漸。よ。ろ。く。あ。ぶ。波。ち。た。ま。と。ある。そ。こ。い。あ。ふ。ら。ぬ。ぐ。ば  
く。流。き。詞。と。い。く。る。山。の。下。る。時。あ。き。い。さ。ぎ。なり。  
と。い。く。る。ま。む。だ。き。ひ。の。事。し。の。ひ。の。く。き。ひ。と。く。  
そ。き。な。り。と。い。う。ま。む。だ。き。い。さ。ぎ。なる。り。古事記傳

よもいへし。い。は。な。い。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
この。例。之。例。度。の。ま。む。も。い。へ。也。

つれて  
ま。ふ。く。又。あ。り。い。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
は。は。の。つ。い。ま。お。ほ。く。あ。り。だ。と。と。流。よ。は。さ。く。舟。  
あ。ね。い。ひ。ひ。風。ふ。れ。く。む。の。ち。る。と。い。ふ。流。の。つ。れて。なり。  
と。い。ふ。ま。む。も。わ。ろ。く。い。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
ほ。い。ひ。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
よ。ぞ。あ。く。又。あ。り。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
あ。く。い。は。あ。く。なる。あ。く。い。づ。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。  
の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。の。ひ。し。つ。の。ま。む。



人の家集どもをたかくつるを述べんやう此物い  
さうよなり。

いづれ

みどりいづれとほらるは物あるとていづれ。

いづれいづれのさかいろいよしふ所あるを言たりと

いづれも辭事しとやう。みづるいづれもみづる

いづれいづれいづれいづれいづれ代実源の故実乎撓誤失

賜布とありがらくなうよなめづるいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

わの思ひとれりやう

謹去より一物一事イナヅツイナジふ文字をあててわつたういとい

づはしまさくから物事用のみをあり我大津國兵ひ

とら物とあてていづれいづれいづれいづれいづれいづれ

事さふまゝとくづいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

轉用の羽と後のまはいいまゝいづれいづれいづれいづれいづれ

とくつる時とたのめはいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

又今他の方とかなど。轉用のまゝとていづれいづれいづれいづれいづれ

は学者とらとらづるやまゝいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれ一物一事イナヅツとわらう。轉用ときつていづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ







かく日本今昔物語やうの書よ何条とかゝるとして  
思ひよれる程が事なるにたのいさゆるあゝまゝに申  
次より後のまなよふの書よらぬ類いと多しとて  
あてふとてふとれあゝむとていふとてふ詞のいさふ  
まゝとていふとていふとていふとていふとていふとて  
よなるとていふとていふとていふとていふとていふとて  
ありあやむとていふとていふとていふとていふとて  
辨とていふとていふとていふとていふとていふとて  
の如くかゝると思ふべしとていふとていふとて

大江戸

江戸とていふとていふとていふとていふとていふとて

あゝふもあゝふもあゝふもあゝふもあゝふもあゝふも  
おえとていふとていふとていふとていふとていふとて  
但し今の書天竺下よとていふとていふとていふとて  
大の又とていふとていふとていふとていふとていふとて  
大宋とていふとていふとていふとていふとていふとて  
江戸とていふとていふとていふとていふとていふとて

おむむら

新居とていふとていふとていふとていふとていふとて  
これ今れ京とていふとていふとていふとていふとて  
のいふとていふとていふとていふとていふとていふとて  
のいふとていふとていふとていふとていふとていふとて



うつろふ  
うつろふ  
うつろふ  
うつろふ  
うつろふ  
うつろふ  
うつろふ  
うつろふ

きやういごあしんもといは詞のきを考ふる。持といふ  
 詞の活用たるものと云ふるも。バ。根。本。居。義。の。は。は  
 の。活。用。に。せ。し。め。ら。れ。る。に。よ。る。べ。し。一。み。が。ら。ふ。日。記。添。氏  
 拍。子。を。い。ふ。一。た。ぐ。一。和。づ。あ。る。と。證。と。ん。こ。と。お。が。つ  
 の。あ。し。假。字。の。書。き。の。書。き。の。修。字。の。證。よ。ひ。き。が。ら。し。  
 又。類。聚。名。義。抄。あ。じ。を。寫。下。し。て。傳。へ。し。ら。る。べ。し。  
 一。任。モ。チ。イ。テ。以。モ。チ。井。ル。假。モ。チ。井。ル。註。モ。チ。井。ル。行。モ。チ。イ。ル。あ。じ。横。と  
 に。い。ふ。よ。う。な。あ。じ。が。證。に。ハ。ト。づ。い。一。た。も。よ。け。詞。中  
 の。よ。り。假。言。よ。も。ら。ひ。る。と。い。ひ。な。れ。一。成。の。あ。じ。あ。さ。じ  
 あ。じ。を。や。つ。ま。じ。の。く。モ。チ。井。ル。と。も。モ。チ。イ。ル。と。も。か。し  
 一。る。る。べ。し。一。定。家。邸。の。歌。合。の。判。辨。よ。け。詞。あ。る

モ。あ。し。當。時。の。活。言。を。い。ふ。之。款。の。判。辨。を。も。ら。し  
 假。言。と。も。あ。じ。を。い。ふ。今。假。の。こと。を。い。ふ。あ。じ。を。い。ふ  
 を。コ。ヒ。ル。強。う。と。し。ヒ。ル。假。言。と。ワ。ビ。ル。と。い。ふ。色。り  
 又。一。版。の。活。用。ハ。イ。キ。ニ。七。と。井。の。外。お。た。ら。し。と。さ。し。あ。じ。ハ。ヒ。キ  
 井。ル。と。い。ふ。詞。を。も。と。し。集。ま。の。二。言。の。一。言。よ。な。れ。る。も  
 の。も。く。ば。用。ひ。の。活。の。證。よ。も。な。り。が。ら。し。一。は。い。で。よ  
 い。し。ん。類。聚。名。義。抄。中。頃。の。活。言。の。古。く。よ。う。つ。し  
 と。い。ふ。會。分。類。聚。集。ま。と。よ。り。私。に。抄。出。し。た。る。物  
 なる。也。一。三。寶。名。義。三。寶。字。類。三。寶。字。抄。な。り。と。い  
 へ。し。せ。る。も。假。の。一。言。と。い。ふ。一。行。の。な。り。ハ。抄  
 出。の。時。に。活。言。よ。も。ら。し。と。い。ふ。は。あ。ら。る。べ。し。一。漢。文

よみの音便オンボンたがくれば之れ如書の痛らことまげき  
がどありシヨウ説と引てくろくをいむおふたる。

やくとやま

やくとやまはくろくをいむおふたる。今わくこと  
せいのらやまはくろくをいむおふたる。今わくこと  
なよはくろくをいむおふたる。今わくこと  
はくろくをいむおふたる。今わくこと  
くろくをいむおふたる。今わくこと  
やくとやまはくろくをいむおふたる。今わくこと  
やくとやまはくろくをいむおふたる。今わくこと

古意

定チヨウはよ古意といふる。家ケ概ガイある説をいふり申ウタごら  
家ケの髓ズ脳ノウといふる物モノ也ナリ。家ケ合カといふ事コト  
もモままりりととよりり人ヒトとと唯タカ欲ヨクとと実ジツ方ホウととままりりととの  
みみどどののほほととああららむむががどどふふ終ツヒはは英エイ雄ユウのの氣キ慨ガイうう  
ままりりととよりり果カははししりりととままりりととののいいづづららいい  
細シ花ワ言ゲン葉エフとと教モテ不フ伎ギ藝ゲイととののいいははもも也ナリひひととり  
ままりりととよりり人ヒト情ジョウととままりりととののいいづづららいい  
ららぶぶとと道ミチととままりりととののいいづづららいい  
賦ヒととままりりととののいいづづららいい  
義ギととままりりととののいいづづららいい



て前公悔く木欲愛ニ学究為秀才却愛ニ秀才為学  
究と歎息をきこし思ふべし其の意を  
皇國の學者者たるの世學究く歎よむとてふ  
ようにいたるごとく人々をいひゆるす  
歎の古き成るの志をぬあやまること  
ある人いづくも人材を撰ぶなどぞも  
いふるもよらあはれむに心をあはせ  
るよがあはれむやむある之は歎に  
大いしといふるも例の成は藝と  
編く紀記萬葉集の歌に古事とて  
やまざりよむとていふよや  
やまは藝よむとて

そのをもく天下の士氣を引きんみちを龜手の薬  
のたといは同くうむべし方今皇國の學者を用  
の議論のなづとて榮概なきといふよをん

丈夫風

加茂の氣云く大戴高遠のあふまこのけ實のいそを  
ぬきなりし山をいづるきりしあめつとといふ  
駒川のうらむはよまきりあるこそやうれ貫  
之のそぎ坂の雲ありに新なるも今やむ  
むや身のいよといふもわろくねむげはよ  
よみちしうびにむやむむの成ま  
まらんといひん今や古きと思はれむ

とふれれあるるがよせらるること。糸の帯にひかれ  
 一丈夫風<sup>マスラフヨブ</sup>をいひやうは後<sup>ゴ</sup>勢<sup>セイ</sup>確<sup>ツク</sup>備<sup>ビ</sup>するをいひ  
 せらるるをいひしるるよ古<sup>コ</sup>の<sup>ノ</sup>いりなりなるを  
 せらるるをいひしるるよ思<sup>シ</sup>ふ<sup>フ</sup>を<sup>カ</sup>憐<sup>レ</sup>こ<sup>ト</sup>。安<sup>ア</sup>ハ<sup>ハ</sup>昌<sup>シヤウ</sup>泰<sup>タイ</sup>  
 延喜より長保寛弘よりまぎのゆりともあぶる  
 一<sup>一</sup>々々<sup>々々</sup>緒<sup>コ</sup>勢<sup>セイ</sup>を<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>糸<sup>イ</sup>糸<sup>イ</sup>事<sup>シ</sup>実<sup>ジツ</sup>を  
 寛急よれり申<sup>ウケ</sup>以<sup>ヨリ</sup>ハ<sup>ハ</sup>く<sup>ク</sup>も<sup>モ</sup>た<sup>タ</sup>を<sup>カ</sup>や<sup>ヤ</sup>先  
 かりは<sup>ハ</sup>な<sup>ナ</sup>づ<sup>ヅ</sup>い<sup>イ</sup>ら<sup>ラ</sup>う<sup>ウ</sup>なる<sup>ル</sup>を<sup>カ</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>ア</sup>く<sup>ク</sup>なる  
 習<sup>ナ</sup>ふ<sup>フ</sup>に<sup>ニ</sup>よ<sup>ヨ</sup>者<sup>オノ</sup>生<sup>ニ</sup>れ<sup>ル</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。糸<sup>イ</sup>糸<sup>イ</sup>事<sup>シ</sup>実<sup>ジツ</sup>を<sup>カ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>る  
 の<sup>ノ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。な<sup>ナ</sup>れ<sup>ル</sup>り<sup>リ</sup>。字<sup>ガク</sup>者<sup>シヤ</sup>を<sup>カ</sup>い<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>。

文政

井上元真

井上元真著

安政六巳未年春

江戸芝神明前  
岡田屋嘉七

